

---

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信  
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会  
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

---

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

---

□ 目次

- (1) 第 15 回図書館利用教育実践セミナー (in 京都) のご案内
- (2) 第 14 回図書館利用教育実践セミナーのご報告
- (3) 編集後記
- (4) 図書館利用教育委員会委員

- 
- (1) 第 15 回図書館利用教育実践セミナー (in 京都) のご案内

利用者の情報行動と情報リテラシー教育

日 時 : 2010 (平成 22) 年 2 月 28 日 (日) 9:30~13:00

会 場 : キャンパスプラザ京都 5 階第 1 講義室

JR 京都駅ビル向かい

<http://www.consortium.or.jp/index.php>

- 基調講演 生涯学習と情報リテラシー教育 : 情報行動研究を踏まえて  
講師 : 三輪真木子 (放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター教授)  
(敬称略。以下同じ)
- 実践報告 情報リテラシー教育の新しい方法とその実践 : 指導のデザインと教材づくりを中心に (仮題)  
講師 : 野末俊比古 (当委員会委員長 / 青山学院大学教育人間科学部准教授)

和田佳代子（当委員会委員／昭和大学歯科医学教育推進室）

インターネット時代における利用者の情報探索・利用行動の傾向・特性などを踏まえて、情報リテラシー教育のプログラム策定や実際の指導を行なっていく重要性や留意点などについて考える機会としたい。

- ・主 催：日本図書館協会（JLA）
- ・企画・運営：JLA 図書館利用教育委員会
- ・対 象：図書館職員，教職員，教育関係者，一般
- ・参加（資料）費：1,000 円（JLA 個人会員は 500 円）
- ・定 員：280 名（申込先着順）
- ・申込方法：下記の申込書に記入のうえ，下記宛てに電子メールでお申込みください。  
E-mail：cue@jla.or.jp
- ・申込締切：2010 年 2 月 22 日（月）
- ・申込・問合せ先：JLA 図書館利用教育委員会事務局  
（cue@jla.or.jp）
- ・詳細・最新情報：http://www.jla.or.jp/cue/

#### ■申込書

-----  
《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：第 15 回

[2010 年 2 月 28 日（日）]

申込日：

氏名（氏名ヨミ）：

JLA 個人会員／非会員（会員の場合は会員番号：\_\_\_\_\_）

所属：

住所：

電話番号：

電子メール：\_\_\_\_\_

-----  
※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表することはありません。  
=====

## (2) 第 14 回図書館利用教育実践セミナーのご報告

### 「図書館利用教育の新潮流」開催

和田佳代子（当委員会委員／昭和大学  
歯科医学教育推進室）

「問題発見・解決型の PBL チュートリアル教育とその支援」というテーマで、2009 年 9 月 25 日（金）午後 6 時 30 分から 9 時まで日本図書館協会 2 階の研修室において、JLA 図書館利用教育委員会主催のセミナーが開催された。参加者は 59 名で、事後に行ったアンケート結果では満足度の平均が約 85%と大変よい評価であり、満足度 100%と回答した人も平均 25%に及んだ。

なお、参加者の内訳は大学図書館員が約 70%、学校図書館員が 25%、その他教員などである。

初めに長澤多代氏（三重大学高等教育創造開発センター）が「課題探求型学習における情報利用教育」と題して PBL チュートリアル教育の概念と目的、また図書館の役割や教員との連携の必要性などを中心に話をされた。アンケート結果でも、この教育との連携を提唱された部分が大変に好評であった。

次に佐藤淑子氏（東京女子医科大学図書館）は「チュートリアル教育の学習環境」と題して、19 年間の図書館としてのチュートリアル教育への参加とサポート体制について実例を中心に話をされた。受講者の感想にも館員の利用者へのサポートを見直すよい機会が与えられた、また長年の蓄積に基づいた実践の話が聞けて良かった、大学全体の教育方針と図書館がリンクしていると感じたなどの評価が寄せられた。

出典：和田佳代子「第 14 回図書館利用教育実践セミナー「図書館利用教育の新潮流」開催」『図書館雑誌』Vol. 103, No. 11, 2009. 11, p. 737-738.

---

### (3) 編集後記

第 75 号をお届けします。今号では、今月、京都で開催される第 15 回図

書館利用教育実践セミナーのご案内を掲載しました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。  
(春田)

---

#### (4) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古 : 青山学院大学教育人間科学部

(委員)

青木玲子 : 和光大学

赤瀬美穂 : 京都産業大学図書館

天野由貴 : 椛山女学園高・中図書館

有吉末充 : 京都学園大学人間文化学部

石川敬史 : 工学院大学図書館

戸田光昭 : 駿河台大学名誉教授

春田和男 : 東京家政大学人文学部

福田博同 : 跡見学園女子大学文学部

和田佳代子 : 昭和大学歯科医学教育推進室

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

---

< C U E > 利用教育委員会通信 第 75 号 (20 卷 3 号) 2010. 2. 2 発行

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

[cue@jla.or.jp](mailto:cue@jla.or.jp)

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

---